

聴いて、触って ふるえる地図

テクノロジーと人の思いやりを掛けあわせて生まれた、
独自の歩行支援技術で、見えない・見えにくいことで外出を諦めない社会の未来を創造しています。

視覚障害 × アナログの安心

歩行ナビゲーションシステム
『ナビレク・バリアフリーマップ』

iOS/Android アプリ
『ナビレク』

人の目で見た道路状況や街の様子を落とし込んで、目の不自由な方がより安全に、安心して歩けるように作られたバリアフリーマップを、専用アプリ『ナビレク』を使い視覚に頼らず音声を中心とした案内にして提供することで外出をサポートしています。



代表取締役 新井 利貴也
電 話 | 050-1791-2070
メ ール | info@yomube.co.jp

音声読書器『快速よむべえ』、歩行支援ナビアプリ『ナビレク』、聴いて・触って・ふるえる地図『ナビレク・バリアフリーマップ』の開発・販売／視覚障害者向け支援機器の販売



視覚障害者の移動における課題



ナビレク・バリアフリーマップの仕組み

作成依頼・協賛

ユーザーや施設、企業からの協賛や作成依頼をいただき、バリアフリーエリア開拓を進めています。

マップを作る

このマップは、視覚障害者の歩行体験をもとに交差点の形・分岐点の構造・進行方向の変化など、歩行時に必要な情報を言葉で理解できるよう整理して作成しています。人が道路状況を見ながら作成するため、点字ブロックの有無や位置、信号の有無や種類なども細かくサポートが可能で、その場所そのルートに適した歩きやすいナビゲーションが特徴です。

マップを公開

作成されたマップは、ポータルサイト『ナビ広場』に公開され、視覚障害者が自ら行きたい場所を選んで利用できます。

マップを使う

『ナビレク』は、公開されたマップデータを取り込み、GPS歩行のタイミングに合わせて音声で読み上げ、利用者が「今どこにいて、次に何が起こるのか」を把握できるよう支援します。

ナビレク・バリアフリーマップは、見えないことで失われがちな歩く自由を取り戻すための、インフラとしての役割を担っています。

取材テーマ

紙面、web、ラジオなど媒体は問いません。
取材形式は対面またはオンラインにて、ご相談ください。

①生活者の視点

当社で働く視覚障害スタッフが『ナビレク』を使った移動の実体験をもとに、街を歩く際の不安や課題、ナビレクがもたらす安心感をお話しします。

②マップ作成の視点

視覚障害者の歩行体験を反映したマップ作成の基本と、歩きやすい理由、どんな情報が助かるかなど特徴的なマップの中身についてお話しします。

公式キャラクター
「もぐべえ」



③社会貢献の視点

協賛を通して SDGs 目標達成の意識を広げ、マップ作成を通じて声かけや道案内のハードルを下げることで社会全体のサポート基盤構築など社会貢献についてお話しします。

株式会社よむべえを通して…

なんでも AI ではなく、手間暇かけて視覚障害者の歩く自由を広げる技術の可能性を描けます。

新デバイスや AI の自動生成ではなく、いつものスマホと街で声をかけられるような道案内が視覚障害者の使いやすさ・安心感繋がっています。

全国どこからでもいつでも参加できる支援のカタチとして、SDGs 目標達成に向けた取り組みに絡めて発信いただけます。

見える人（晴眼者）が視覚障害支援の情報に身近に触れる機会が多ければ多いほど、社会を巻き込んだサポートに繋がります。お気軽にお問い合わせください。

株式会社よむべえ

050-1791-2070 / info@yomube.co.jp

